

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (JICA/DPUB)

ニュースレター第35号 2020.05

DPUBメンバーから贈るプロジェクト終了挨拶



専門家 照屋江美

「障害は、環境や人々の態度によって生じている」私のモンゴルでの約4年間の活動は、この考え方の普及でした。段差がスロープだったら、エレベーターに音声ガイドが付いていたら・・・私たちのプロジェクトが発信し続けたメッセージがきっとモンゴルの人達に届いていると思います。

障害当事者として、モンゴルの人達に最後に伝えたいことは、「啓発に終わりが無い」ということです。物理的な環境が改善されても、人々の障害のある人達への偏見、意識のバリアは根強く残ります。また、障害のある人達自身も、機能障害があるからといって、社会参加をあきらめていないでしょうか？当事者やその家族を含めたすべての人々に対する啓発活動が、プロジェクトが終了しても継続されることを願ってやみません。

物理的な環境が改善されても、人々の障害のある人達への偏見、意識のバリアは根強く残ります。また、障害のある人達自身も、機能障害があるからといって、社会参加をあきらめていないでしょうか？当事者やその家族を含めたすべての人々に対する啓発活動が、プロジェクトが終了しても継続されることを願ってやみません。

私は、磯部陽子・元専門家から引継ぎを受け、2018年5月からの2年間で、モンゴル国にて活動しました。障害関連情報についての調査分析業務のほか、業務調整などを担当しました。一例として、障害者白書の第2版と第3版の発刊に協力しましたが、今後も労働社会保障省が主体的に発刊していくことを期待しています。「障害者数」などの根本にかか



専門家 東田全央

わる障害統計の改善にも協力することができ、さらに発展していくことを願っています。この2年間で、モンゴルの関係者のみなさまの尽力があってこそ様々な活動に関わることができたと確信しており、この経験は私自身にとっても大きな財産となりました。また、ウランバートル市内での生活と活動が中心でしたが、地方出張や旅行の機会もあり、モンゴルのことがさらに好きになりました。プロジェクト終了後もモンゴルには何らかの形でかかわり続けられればと考えています。ありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

JICA/DPUBは無事、4年間の活動を終えることができました。これもひとえに、モンゴル政府、障害者団体やNGO、そして関係者の皆さまの理解と協力のおかげと思っています。2016年に赴任した時は、自分に何ができるか不安もありましたが、障害者白書の発行、新しい障害統計の実施、建築管理制度を始めとする物理アクセシビリティの改善、情報アクセシビリティの取り組み、障害平等研修 (DET) の普及と障害の社会モデルの理解促進、障害勉強会など、様々な活動をみなさんと実施することができました。ただ、すべての人が住みよい社会を作るには、継続した努力が必要です。DPUBは2020年5月30日で一旦終わりますが、また皆さまと一緒に活動ができることを心から願っています。



チーフアドバイザー
千葉寿夫

JICA/DPUBは2016年から4年間実施され、無事終了しました。モンゴル国政府と日本のJICAとの技術協力プロジェクトで、人材育成や能力強化、社会の意識改善を目標に様々な活動を実施した中、我々モンゴル人スタッフにとっては、業務中のやり取り、日常コミュニケーション、書類作成などはすべて日本語とモンゴル語で共通させる役割を持っていたので、強い意識と責任を感じた4年間でした。また、これまで正式に関わりがなかった分野でもありましたので、学びながら仕事を進め、行政とNGOと日本人の専門家をつなぐために全力を尽くしたおかげで、我々も成長しました。この4年間ご協力をいただき、誠にありがとうございました。社会の意識を改善する啓発活動は今後も継続されることを願います。



左からエンフジン、アマルジャルガル、オドゲレル、
ダワージャブ

DPUB最後のJCC（合同調整会議）が5月8日に実施され、無事終了しました。JCCでは、4年間の活動報告と労働社会保障省を中心とする関連省庁や障害者団体から今後の方針や活動計画が示され、非常に有意義な会議となりました。この4年間、障害者国家委員会や障害者開発庁の設立、障害者白書の出版、障害者統計の改善、バリアフリーを推進する建築管理制度の改善や新基準の策定、さらにアクセシビリティ法案の検討、情報バリアフリーの推進など、さまざまな進展がありました。なかでも、障害者平等研修が広く実施されたことは非常に効果的でした。すでに1万人以上が研修に参加し、「障害の社会モデル」がモンゴルでは徐々に当たり前になってきています。一方で、まだ1万人しか受講していないので、今後は更にDETの実施が必要と思います。モンゴルでは、障害の社会モデルが真に当たり前、と思われるように、DETファシリテーターの皆さまには、今後の活動を期待しています。JCCが終了したことで、DPUB4年間の活動は、ほぼ終了したことになります。これまで、プロジェクト活動に参加して下さった皆さま、本当にありがとうございました。障害者の社会参加促進は、モンゴル政府およびNGOにより、更に発展すると信じています。



第8会DPUBのJCC(合同調整会議)が実施された5月8日に、労働社会保障省のウヌルバヤル事務次官より、労働社会保障分野の最優秀職員として、JICAチーフアドバイザーの千葉寿夫専門家が勲章を受賞しました。JICA/DPUBにとって、とても光栄なことです。モンゴル政府の皆さま、また障害者団体NGOの皆さまに、重ねて感謝申し上げます。千葉専門家は「モンゴルに来て4年間、少しでも障害分野に貢献できればと思い活動してきましたが、その結果、勲章まで頂けることを非常に嬉しく思います」とコメントしました。



第8会DPUBのJCC(合同調整会議)が実施された5月8日に、労働社会保障省のウヌルバヤル事務次官より、労働社会保障分野の最優秀職員として、JICAチーフアドバイザーの千葉寿夫専門家が勲章を受賞しました。JICA/DPUBにとって、とても光栄なことです。モンゴル政府の皆さま、また障害者団体NGOの皆さまに、重ねて感謝申し上げます。千葉専門家は「モンゴルに来て4年間、少しでも障害分野に貢献できればと思い活動してきましたが、その結果、勲章まで頂けることを非常に嬉しく思います」とコメントしました。

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com